

災害支援・教育復興にむけて

つなぐ



日教組災害対策本部

〒101-0003

東京都千代田区一ツ橋 2-6-2

HP:<http://www.jtu-net.or.jp/>

気仙沼・災害救援ボランティア

連合・災害救援ボランティアに日教組は、岩手と宮城で活動していました。しかし、宮城のボランティアは、4月7日の大きな余震によって一時中断をしました。宮城（気仙沼）で活動した江藤青年部長からのメール報告の一部を掲載します。



今まで3日間は倒壊してない家屋の泥だしと家財道具出し。
一階はほとんどの家が天井まで水がきていて、すべての家具は廃棄の状態。

比較的、被害が少なく、危険のないところに行っている。港近くの町は壊滅。瓦礫以外は何もない。重機がないとどうしようもないらしい。

人間でなんとかなるとこも、家から出しても行政は流れてきたゴミは持っていくけど、自分のとこのゴミは自己処理するしかない。
しかも、公道には出してはいけない。
庭や駐車場のない家はどうしようもない。



先日、女性1人で作業をしているお宅を手伝いに行った。そこでは、真向かいのお宅が頼んだ業者をさらに紹介してもらってどうにもならなかった瓦礫を撤去してもらえることになった。

つながりがあることで情報も入るし、直接的に助け合っていた。

ただ、そうではない場合もある。ボランティアの存在自体を知り得ていない人たち。
周りに人や家がない人たち。

たまたまボランティアをしている姿を見て、声をかけてくる人は多い。





どうしたらいいか分からない状況にある人も多いのかも知れない。頼るすべのない状況にある方がどれほどいるのかと思った。

そう思ったとき、障害をもった人たち、差別を受けてきた人たちの今、が気になってきた。振り返れば、全くその方々の話題がでない。姿も見えない。

戦時中、原爆直後の混乱の中でも無くならなかった差別。
同じことが起こっていただければと願うばかり。



先日、急にアスベスト用のたいそうなマスクを配られ、着用を義務付けられた。危険性があるらしい。

マスクもなく毎日作業している現地の人に配分しないでもいいのか、と思った。

昨夜の地震で騒然となった。ボランティアメンバーの大多数は起きていたから、すぐに外に逃げた。すぐに電気が消え、非常灯のみになった。幸いにも泊まっている民宿やメンバーには特に被害はなかった。

被災地は、津波は来なかったが、広範囲で電気と電話、水がとまった。死者も新たに出た。そんな中、自分たちは、携帯でニュースを見て、ガスで作られた朝食を食べてる。

すべてはたまたま。

たまたま、建物が崩れなかった。たまたま、仲間が沢山そばにいた。

たまたま、的確に安全な行動を指示してくれる人がいた。

たまたま、ガスで朝食を作ってもらえる環境にいた。

たまたま、生きている。

いつも、どんな災害でも、ぼくらはたまたま生き延びているし、たまたま被害を被っていないだけだと思った。

その「たまたま」の事に馴れ、危機感や必要な準備をしなくなるのは危険なことだと再認識した。

それは災害だけには限らない。

今感じているのは、一番被災地が大変なときに動けないのが、身の安全が第一のボランティア。ここに来て、無力感をまた感じる。